

東京都小学校国語教育研究会研究主題

## 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

話すこと・聞くこと部 研究主題

「求めて聞き、関わって伝える力」を育てるために

# 第2学年国語科学習指導案

## 単元名

元気になあれ！おすすめサラダをめしあがれ！  
～友だちと聞き合ってよりよいスピーチにしよう～

日 時：令和6年2月16日(金)5校時

児 童：西東京市立田無小学校 第2学年1組 31名

担 任：西東京市立田無小学校 主任教諭 山口 真理

指導者：東大和市立第一小学校 主幹教諭 齋藤 公子

### 1 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (1)オ	「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習課題に沿っておすすめサラダを紹介しようとしている。

### 3 単元構想

#### (1) 児童について (児童観)

2年生の児童は、友達や先生などに、自分の身近な事柄について「話すこと」への意欲が高い。一方、自分の思いや考えを伝えたい気持ちがあっても、詳しく話したり、分かりやすく相手に伝えたりということが難しい児童も多い。また、相手の話に関心をもち、最後まで聞いたり、感想や質問を返したりすることが難しいという実態も見られる。2学期に行った「そうだんにのってください」(光村図書2下)の単元では、友達の相談ごとに関心をもち、「自分だったら」と自分と比較しながら、アドバイスや意見を伝えることができた。また、相手に対してよりの確で具体的なアドバイスを伝えるためには、友達の相談内容を詳しく聞き出すための質問をすることが大切だと気付くこともできた。本単元では、「話すこと」に焦点を当て、学級全体に向けてスピーチすることを単元のゴールに設定している。相手に伝わる「よりよいスピーチ」

一斉」をするためには、どのようなことに気を付ければよいか、互いにアドバイスをしながら工夫・改善できるように指導していく。

## (2) 学習材について (学習材観)

### ① 2年生の実態に合った話題

2年生の児童は学校生活にも慣れ、様々な活動に取り組むことができるようになってきている。1年生のときには個人で行うことが多かった学習活動も、ペアやグループで行うなど、集団で活動する場面が増えてきた。その中で、身近なことや経験したこと、そのときの思いなどを伝えるよさに気付き始めている。

生活科の学習では、様々な野菜を育てることを経験した。発芽の喜びから収穫までの世話を通して、「食」に対する関心が高まってきている。様々な学習や生活経験を通して、「食」と自身の成長がつながっているという実感をもてるようになってきた。

このような実態から、本単元的话题を「元気になるあれ！おすすめサラダをめしあがれ！～友だちと聞き合ってよりよいスピーチにしよう～」と設定した。元気になるようなサラダメニューを考え、レベルアップタイムを通して、話すときのこつや構えを身に付け、スピーチのレベルアップを目指す。そして、学級全体に向けて相手により伝わりやすいように工夫して、自分が考えたサラダのよさを発信する。

### ② 「実際の生活の場に生きる」話題

学校生活の中で児童が楽しみにしている時間の一つが「給食の時間」である。個人差はあるが、2年生は給食を減らす児童は全体的に少ない傾向がある。また、給食に出る様々な食材の組み合わせや食べやすい味のサラダも好んでおり、おかわりをする児童も多い。

本単元も、友達に「おすすめサラダ」を話したり、友達の「おすすめサラダ」を聞いたりすることで、「試してみたい」「食べてみたらすごくおいしかった」など、食べるのが楽しみになり、「食」に対して前向きになれることから、実際の生活にも生かすことのできる話題だと考える。

### ③ 児童が「話したい」と思う話題

2年生の児童は、食べ物が体に与える影響について2年生なりに感じ取り、苦手なものにも挑戦した方が体によいという知識も備わってきている。本単元を通して、児童自身が「きっとこれなら元気になる、話してよかった。」という達成感を抱き、聞いた相手は、友達が紹介してくれたメニューを「試してみたい。」「これなら食べられるかも。」と期待感を抱くことができる。以上のことから、本単元では話し手と聞き手のそれぞれにとってよさがあると考え、また、学習を通して「食」をより前向きに捉えられる活動であると考え、

### ④ ICTの活用

近年、一人一台のタブレット端末が貸与され、様々な学習場面で使用されている。本単元では、それぞれが考えた「おすすめサラダ」の絵をタブレット端末で写真に撮り、電子黒板に映し出しながらスピーチを行う。また、一人一人がスピーチをする姿を録画し、自身のスピーチを客観的に捉えて話すときのめあてを考えたり、自分自身の学びや成長を振り返るときに役立てたりするなどの方法で活用していく。

## (3) 単元について (単元観)

本単元の重点指導事項は、学習指導要領(平成29年)国語編A話すこと・聞くことのウ「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること」であり、解説には「適切な話し方を工夫することに重点を置いている」と書かれている。児童が「相手に伝わるように」という意識をもち、自分の思いや考えを自分の声によって伝えるための「話し方」を身に付けることを目指している。

本分科会では、「話し方の工夫」の観点を、話すときの「こつ」と「構え」に分けて捉えた(表1)。

表1 話し方の工夫の観点

話すときのこつ	話すときの構え
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に届く声で話す(声量)</li> <li>・ゆっくりと話す(速さ)</li> <li>・言葉をはっきりと話す(発音)</li> <li>・丁寧な言葉で話す(言葉遣い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を見て話す(視線)</li> <li>・まっすぐに立って話す(姿勢)</li> <li>・笑顔で話す(表情)</li> <li>・身振り、手振りを付けて話す</li> </ul>

「話すときのこつ」は、音声として聞き手に届く、技能につながるものである。まずは、話し言葉が音声として届き、何を話しているのかが相手に分かる必要がある。そのため、本単元の指導においても、概ね満足できる状況の児童の姿として、「相手に届く声で」「ゆっくり」「はっきりとした言葉で」といった、「こつ」の観点が達成された姿を想定している。

「話すときの構え」は、話し手の「伝えたい」という思いが聞き手に見た目や様子などでも伝わるように心掛けたい、態度につながるものである。「こつ」を意識できている児童に対しては、話の内容が思いとともに相手により伝わるように、「構え」の観点である視線や表情などの工夫の指導を想定している。

このように、指導者にとっても児童にとっても指導のポイントやレベルアップの段階を分かりやすくするために「こつ」と「構え」として「話し方の工夫」の観点を整理したが、話し言葉の特性上、この二者は分断されるものではなく、必ずしも下位や上位などの順序性があるものでもない。「こつ」と「構え」は、「話し方の工夫」の両輪である。言葉は明瞭でも思いが声によっておらず、言いたいことが伝わってこないこと

もあれば、言葉がスムーズでなくとも、伝えようとする声のトーンや目線によって、思いが相手の心に響くこともある。大切なのは、相手の反応やその場の状況を捉え、それに応じて話し方を考えながら話す相手意識である。そこで、低学年の児童への指導として、「相手を見て話す」ことはどの児童も経験できるようにしたいと考え、本単元においても、メモや原稿を見ずにスピーチできるように練習の時間を設定したり、スピーチの内容を覚えようとしなくても自分の思いを自分の言葉で語れるような、自分の経験を話したりする言語活動を設定したりした。

本分科会では、このような「話し方の工夫」の観点を児童が自覚して学習に取り組み、「話す力」を身に付けていくことが大切であると考え。そこで、第4時(本時)では、「話し方の工夫」を児童の言葉でまとめ、その中から一人一人が自分のめあてを決めてスピーチに取り組む活動を設定した。本単元の第2時において、「どのような言葉や順序で話したら相手に分かりやすいか」を意識してスピーチの内容を考える姿は「言葉による見方」を働かせている姿であり、第3時、第4時(本時)において、「どのような話し方や態度でスピーチをすれば相手に伝わるのか」を意識してスピーチに臨んでいる姿は「言葉による考え方」を働かせている姿であると捉える。具体的な指導方法の詳細については、5章「研究主題に迫るために」に記述している。

#### 4 話すこと・聞くこと部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

話すこと・聞くこと部では、「話すこと・聞くこと」の学習における「言葉による見方・考え方をはたらかせること」を次のように捉えた。

言葉による見方とは、数ある言葉の中で、相手(対象)や目的、話題、聞き手に与える印象や聞き手の様子、話し手の意図や思いに即して使われた話し言葉の意味や働き、使い方に着目することと考えた。

言葉による考え方とは、聞き手の立場や思い、話し手の立場や思いに即して話し言葉の働きを捉え直したり、説得や推薦などの目的に応じてどのような言葉を使うとよいかを比較・吟味し、言葉の意味や働きを問い直したりすることと考えた。

これらの考えを踏まえて、どのような言葉を選び、どのような言い方で伝えれば相手に伝わるか自覚化していくことが「言葉による見方・考え方をはたらかせること」であると捉えた。

#### 5 研究主題に迫るために

##### (1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

###### ①話題の設定

本単元で身に付けたい力は、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫して話す力である。児童が、紹介したいことを相手に伝わるように話すことを意識し、相手とやり取りをすることのよさを実感し、話すことに手応えを感じられるようにするためには、児童が主体的に話したいと思える話題の設定が重要だと考える。そこで、児童にとって身近で興味関心の高い「食」を話題とし、元気になれるおすすめのサラダの具材を考え、選んだ理由をおすすめポイントとして学級の友達に向けて紹介するスピーチをすることを単元のゴールに設定する。また、サラダの具材を3種類に限定して(条件として、野菜を1種類以上は入れる)、サラダに合う味も考えることで、児童にとって選択して考えることが容易で、さらに児童一人一人の経験を基にした多様な考えが生まれることをねらった。

###### ②学習過程の工夫

本単元は児童の「おすすめのサラダを考えたい」「自分のおすすめのサラダについて友達に話したい」という気持ちを重視し、児童の思いに寄り添った学習過程とした。相手や自分自身とのやり取りを通して、より相手に伝わるような話し方を工夫できるようにする。

なお、メモをそのまま読むのではなく、相手を意識して「語る、伝える」姿を育てることを目指して、第3時に個人でのスピーチの練習を設定する。

###### ③スピーチモデルの共有

学習内容を児童自身が身に付けたい力として自覚できるようにするために、スピーチモデルを児童に示す。第1時と第4時(本時)に、教師によるスピーチモデルを実演で児童に示すことで、相手に伝わる「よりよいスピーチ」について、話すときのこつや構えの両面に意識を向けられるようにする。そして、モデルをもとに「よりよいスピーチ」とはどのようなスピーチかを全体で考えることで、自分自身のスピーチを客観的に捉え、第5時の本番のスピーチに向けて自分のめあてをもって主体的に取り組めるようにする。

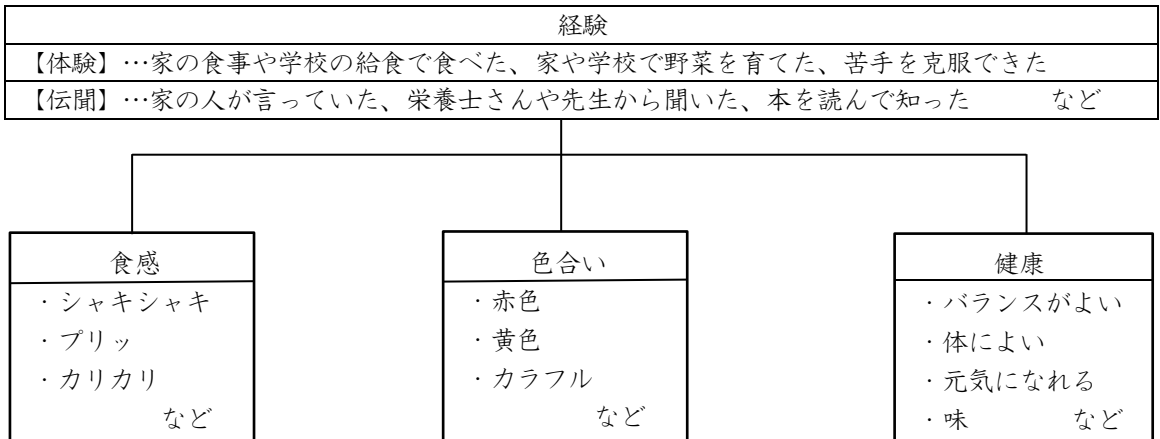
どのようなスピーチをすると自分の考えたサラダのよさが相手に伝わるのかということを実感することは、身に付けたい力を自覚することに直結するものだと考えた。児童に示して共有を図るスピーチモデルは、次に示す通りである。

【スピーチモデル】

はじめ	どんなサラダか ・サラダの名前 ・具材 ・味	みなさん、わたしのサラダを見てください。 わたしが考えたのは、「カラフルサラダ」です。 「カラフルサラダ」には、パプリカとソーセージ、レタスが 入っています。「カラフルサラダ」には、ごまだれが合うと思 います。
なか	おすすめポイント①  ※経験（体験）	なぜ、きれいな色の野菜を選んだかという、給食のとき にカラフルな野菜が出てきて、元気が出たからです。
	おすすめポイント②  ※経験（伝聞）	
おわり	よびかけ （おわり）  ・みんなへの一言	みなさんも、見た目から元気になれるおいしい「カラフル サラダ」を食べてみてください。

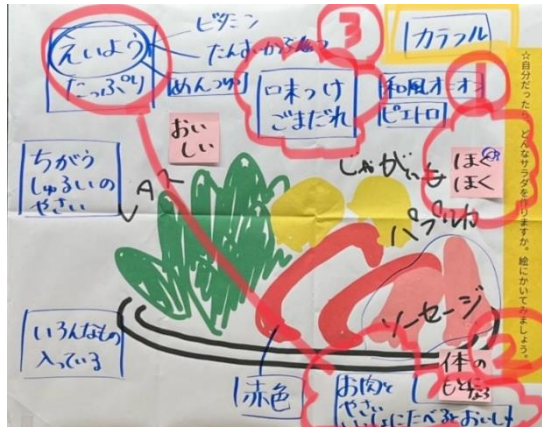
※スピーチの内容に入れる経験に基付いた「おすすめポイント」の例は以下の通りである。

【おすすめポイントの例】



④スピーチメモの活用

第2時で作成するスピーチメモは、5章「研究主題に迫るために」の「③スピーチモデルの共有」でも示した通り、「はじめ-なか-おわり」を意識して構成する。「はじめ」では、どのようなサラダを考えたのかが分かるように、サラダの名前や具材、味などを紹介する。そして、相手に「食べたい」と思ってもらえるような、自分のサラダのおすすめポイントを2つに精選する。「なか」では、おすすめポイント①とおすすめポイント②をそれぞれ伝える。サラダのよさが伝わるように、具材を選んだり組み合わせたりした理由などについて、自分の経験を基に話せるようにする。「おわり」では、相手に「食べたい」と思ってもらえるような呼び掛けの言葉を添える。スピーチメモの作成につなげるための全体での「おすすめポイント」の共有については、次に示す通りである。



※おすすめポイントを付箋に書いて貼る。おすすめポイントを整理しやすいように、モデルの絵にも番号を付ける。

⑤ワークシートの活用

第4時（本時）に、自分のめあてを設定したりトリオで相互評価をしたりすることができるようなワークシートを活用する。トリオでのレベルアップタイム③の前に話すときのこつや構えに関する自分のめあてを設定し、話し手がスピーチをする前に、どのようなことをめあてにしたか相手に伝えることで、よりよいスピーチを意識して話せるようにする。また、スピーチの後に、自分のめあてを意識して話せていたかどうかを聞き手が感想やアドバイスとして話し手に伝える。話し手が聞き手とやり取りしながら、それぞれが考えるよりよいスピーチを目指せるようにする。レベルアップタイムの終了後は、めあてが達成できていたら、相手のワークシートに丸を付けることで、話すことに関する互いのよさや課題を実感できるようにする。最後に、単元のゴールに向けて自分なりのスピーチのめあてを設定することで、第5時の本番のスピーチに生かせるようにする。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

①レベルアップタイムの設定

互いの考えやスピーチを聞き合ったり、それに対して感想やアドバイスを伝え合ったりすることで、やり取りを通して互いのスピーチを相手に伝わるよりよいものにしていくための「レベルアップタイム」を設定した。本単元では、おすすめのサラダについて紹介するスピーチをするという最終ゴールとなる言語活動に向かって、第2時と第4時（本時）では、ペアとトリオにてレベルアップタイムに取り組むという言語活動を設定した。全3回のレベルアップタイムは以下の通りである。

レベルアップタイム①（ペア）	「自分の考えたおすすめのサラダを誰かに伝えたい」という主体的な思いを大切にするため、やり取りモデルは示さずに取り組むようにする。
レベルアップタイム②（トリオ）	トリオでお互いのスピーチを聞き合う。自分のスピーチメモをもとに、単元のゴールに向けて人前で話すイメージをもつ。相手に伝わる「よりよいスピーチ」にするために、話すときのこつや構えなどが大切であることに気付けるようにする。
レベルアップタイム③（トリオ）	レベルアップタイム③に入る前に、教師によるスピーチモデルを実演で児童に示す。相手に伝えるために大切にしたい話すときのこつや構えを全体で共有する。そして、児童が自分なりの話すめあてをもつ。児童のめあては、1～3個程度に焦点化する。どのような言葉を使えば、相手に「食べてみたい」と思ってもらえるか言葉を精選したり、どのようなスピーチをすれば相手に分かりやすく伝わるかを考えたりできるようにする。

合計3回のレベルアップタイムを通して、スピーチを聞き合って話し方を工夫することで、よりよいスピーチを目指すことにつながると考える。単元のゴールに向けて目的に応じたレベルアップタイムを設定することで、相手からの感想や助言を受けて自分のスピーチを見直し、児童が自分なりのめあてをもって話せるようにしたい。

②やり取りのモデル動画の活用

レベルアップタイム②と③の進め方や役割等を確認するために、第4時（本時）の最初にやり取りモデルの動画を視聴してから活動を行う。話し手がスピーチをする前に、自分が意識して話すポイントを聞き手に伝えたり、スピーチをした後に「私のスピーチはどうでしたか」と聞き手に問い掛けたりして、アドバイスや感想をもらう。やり取りのモデル（レベルアップタイムの進め方）は、次に示す通りである。

【やり取りモデル】

A: 話し手、B・C: 聞き手

話し手	話し手のモデル	レベルアップタイムの流れ	聞き手のモデル
A	<p>まずは、<u>私から話す</u>ね。 私は、<u>はっきりと大きな声で話すことに気を付ける</u>ので、<u>聞いてください</u>。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>【スピーチ】</b></p> <p>みなさん、わたしのサラダを見てください。 わたしが考えたのは、「カラフルサラダ」です。 「カラフルサラダ」には、ジャガイモと、パプリカとソーセージ、レタスが入っています。「カラフルサラダ」には、ごまだれが合うと思います。 なぜ、きれいな色の野菜を選んだかというと、給食のときにカラフルな野菜が出てきて、元気が出たからです。 ソーセージは、わたしのお母さんが「お肉を食べると、体が強くて元気になるよ。」と、いつも言っているので入れました。 みなさんも、見た目から元気になれるおいしい「カラフルサラダ」を食べてみてください。</p> </div> <p>これで<u>終わります</u>。 <u>私のスピーチは、どうでしたか</u>。</p>	<p>・ <u>話す順番を決めてから話す</u>。</p> <p>・ <u>スピーチする前に、自分のめあてを伝える</u>。</p> <p>・ <u>スピーチをする</u>。</p> <p>・ <u>スピーチした後に、聞き手に感想やアドバイスを求める</u>。</p>	<p>話し手の方を見ながら、相手のめあてを意識して聞く。</p> <p>話し手がめあてを意識して話していたかについて、感想やアドバイスを伝える。</p> <p>話し方の工夫だけではなく、食べてみたいと思ったかなど、サラダについての感想を伝えてもよい。</p>
B	<p>大きな声で話せていて、とてもよかったよ。それくらいの声の大きさなら、教室の後ろにいる人も聞きやすいよ。</p>		
C	<p>少し速くて聞き取りにくい言葉もあったから、もう少しゆっくりと話すといいと思う。</p>		
A	<p>きんちょうしていて、早口になっていたことに気付かなかったよ。次は、ゆっくりと話してみるよ。 二人は、私の考えたサラダを食べてみたいと思った？</p>		
B	<p>うん。パプリカは苦手だけど、ぼくが好きなソーセージも入っているなら、おいしそうだなあと思ったよ。</p>		
C	<p>色んなやさいが入っていて、見た目もカラフルなら、体にもよさそうだよね。</p>		
A	<p>ありがとう。<u>次はBさん、お願いします</u>。</p>	<p>・ <u>感想やアドバイスを伝えたら、次の話し手と交代</u>をする。</p>	
B	<p>はい。</p>		
	<p>～以下Cのスピーチまで、Aのスピーチと同様に行う。～</p>		

※下線部については全体で確認する。レベルアップタイムの進め方を理解して、目的をもってスピーチを聞き合

うことができるようにする。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元は、「聞き手とやり取りしながら、自分の考えを広げ、伝える力」を育成するために設定した。本単元の学習を経て、相手に自分の思いや考えが伝わるように話すためには、伝えたい事柄や相手に応じて、話すときのこつや構えを意識しながら話すことが大切であることを児童自身が学んでいると考えられる。そこで、本単元を通して獲得した言葉の力を生かして、他教科等での発表や話し合い等において、相手意識や目的意識をもってより充実させることを目指したい。

他教科等との関連について、例えば、学級活動における話し合い活動では、学級生活の充実に向けて学級会を開いて話し合う学習が挙げられる。ここでは、本単元で学んだ実演やモデルを活用した話すときのこつや構えを生かすことができるであろう。さらに、話し手と聞き手という役割を交代しながら順番にやり取りをしたり、ねらいに沿って相手に感想や助言を伝えながら話し合ったりするなど、レベルアップタイムでのやり取りモデルを活用した学びが生きてくると考えられる。

また、3学期に生活科で行う自分自身のこれまでの成長を振り返り発表する単元においても、自分自身の成長を見出し、何をどのように発表するかを考える際に、本単元で行ったおすすめポイントを考えて精選する学習を生かすことができると考えられる。そして、自分の経験や体験について相手に伝わるように話すことも期待できる。さらには、本単元で身に付けた「はじめ-なか-おわり」という順序に気を付けて話を構成する力も生きてくるであろう。スピーチメモの作成を通して話の構成について考えた経験は、自分の伝えたいことを話す際にも、相手意識や目的意識を明確にもって分かりやすく話そうとする姿に結びつくであろう。

このように、本単元で獲得した言葉の力を、国語科での指導に限らず、他教科等での学びや日常的な取り組み、そして児童の生活に結び付けられるよう、相手意識や目的意識をもってより充実させていくことを目指したい。

## 6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
第一次 話題の設定 情報の収集	課外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本「サラダでげんき」の読み聞かせを聞く。</li> <li>・これまでの給食のサラダメニューを振り返る。</li> <li>・栄養士の先生のお話を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本「サラダでげんき」の読み聞かせを行うことで、食材には、食べると元気になる力があることを実感できるようにする。</li> <li>○様々な具材や味、組み合わせのサラダを写真で提示する。</li> <li>○好きな食材や味付けを思い出して、サラダメニューを考えたいという意欲を引き出す。</li> <li>○栄養士が、どのような願いでサラダメニューを考えているかについて話を聞くことで、具材の組み合わせや味、栄養などについての考えを広げられるようにする。</li> </ul>	
	1	1 単元のめあてをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科の学習で育てた野菜をどのように食べたのかを発表したり振り返ったりすることで、自分の経験と関連付けて考えられるようにする。</li> <li>○児童が行うスピーチのモデルを意識して、サラダの絵やおすすめポイントを明示しながら教師自身の「おすすめサラダ」(カラフルサラダ)を紹介する。</li> </ul>	
		元気になるおすすめサラダを考えて、友達に紹介しよう！		
		2 学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元のゴールと単元全体の流れを確認しながら、児童とともに学習計画を立てるようにする。</li> </ul>	
		学習計画を立てよう。		
		3 サラダに使われる食材などを想起し、自分のおすすめポイントを考える材料を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の経験から、サラダにふさわしい食材や味付けなどを発表し、全体で共有することで、「元気になるサラダ」に対するイメージをもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。[知識・技能]</li> <li>(1)オ</li> <li>★発言、学習カード①</li> </ul>
		4 「おすすめサラダ」の絵を描き、イメージを膨らませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サラダの条件(野菜を加えた3種類の具材)を確認する。</li> <li>○サラダのおすすめポイントを書き加え、話す順番を決めるよう助言する。</li> <li>○イメージを書ける児童には、絵に書き込みをするよう促す。</li> </ul>	



第二次 内容の検討・構成の検討・考えの形成	2	1	本時の活動を確認する。				
				おすすめサラダを紹介する、スピーチメモを考えよう。			
		2	おすすめサラダの絵におすすめポイントを書き入れる。	○第1時で教師が示したおすすめサラダ（カラフルサラダ）の絵を提示することで、おすすめポイントの書き方や、話す順番の整理など、スピーチメモの作り方を視覚的に理解できるようにする。 ○おすすめポイントを比較したり選んだりできるように付箋紙に書いて貼るように伝える。			
		3	おすすめポイントを全体で共有する。	○おすすめポイントの例をもとにどのようなことがおすすめポイントになるのかを全体で確認することで、自分の経験に基づいて選んだ理由を考えられるようにする。			
		4	ペアになり、おすすめサラダを見せ合う。 (レベルアップタイム①)	○付箋紙やイラストなどを活用して、おすすめポイントを視覚的につかめるようにする。 ○自分の考えたおすすめポイントが相手に伝わるかどうかを確認するよう助言する。	◆積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習課題に沿っておすすめサラダを紹介しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言、交流の様子、学習カード②		
		5	スピーチに取り入れるおすすめポイントを絞る。	○3と4の活動を経て、自分の絵の中に書き加えたおすすめポイントの中から、スピーチに取り入れたいものを2つに絞るよう促す。			
	6	選んだおすすめポイントをもとに、スピーチメモを書く。	○スピーチメモを書く際に、スピーチモデルを示すことで、「はじめ-なか-おわり」という順序を意識して話を構成できるようにする。				
	3	1	本時の活動を確認する。				
				スピーチメモもとに、スピーチの練習をしよう。			
		2	前時に作成したメモをもとに、スピーチの練習をする。	○個人での練習の際に、自己のスピーチを客観的に捉え、第4時（本時）の自分のめあてにつなげられるよう、タブレット端末の動画機能を適宜活用しながら練習するよう伝える。			
		3	振り返りをする。	○第4時（本時）のレベルアップタイム②の自分のめあてを考え、学習カードに記入することで、めあてをもってスピーチに臨めるようにする。			
		4	次時の活動を行うトリオを確認し、レベルアップタイムでスピーチをする順番を決める。	○次時の活動に見通しをもち、相手意識を明確にして安心して取り組めるようにする。			

4 (本時)	1 本時の活動を確認する。		
	レベルアップタイムを使って、おすすめサラダのスピーチをよりよくしよう。		
	2 やり取りモデルを視聴し、レベルアップタイムの進め方を確認する。	○やり取りモデルを活用して進め方を丁寧に確認する。 ○スピーチをする際は、サラダの絵を譜面台に載せ、聞き手を意識して話すよう助言する。	
	3 トリオになり、お互いのスピーチを聞き合う。(レベルアップタイム②)	○スピーチメモをもとに、聞き手に向かってスピーチをすることで、相手意識をもって話せるようにする。	
	4 「よりよいスピーチ」について、全体で考える。	○自分が話して満足するのではなく、伝えたい相手を意識して話すことの重要性に気付けるようにする。 ○教師によるスピーチモデルを実演で示し、「よりよいスピーチ」について考えることで、話すときのこつや構えについて意識を向けられるようにする。 ○自分たちで考えた話すときのこつや構えをもとに、話すめあてを設定するよう促す。	
	5 「よりよいスピーチ」の確認を踏まえて、スピーチの練習を行う。(レベルアップタイム③)	○自分のめあてを意識しながら、やり取りモデルをもとにスピーチを聞き合い、感想やアドバイスを伝え合うよう助言する。 ○レベルアップタイム③の終了後に、互いのめあてを確認し合い学習カードに丸を付け合うことで、それぞれのめあてが達成できていたか視覚的に分かるようにする。	◆「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 〔思考・判断・表現〕A(1)ウ
	6 振り返りをする。	○本時の学習を振り返ることで、次時のおすすめサラダ発表会に向けての自分のめあてを設定する。	★スピーチの様子、交流の様子、ワークシート
第三次 表現 共有	5 1 本時の活動を確認する。		
	「おすすめサラダ発表会」で、相手に伝わるようにスピーチをしよう。		
	2 「おすすめサラダ発表会」で、自分が考えたおすすめサラダについてスピーチをする。	○おすすめのサラダについてのイメージを共有できるように、電子黒板にサラダの絵の写真を映しながらスピーチをするよう伝える。 ○本単元を振り返る際に、自己の学びの積み重ねや成長を児童自身が実感できるように、スピーチの様子はタブレット端末で録画する。	◆積極的に声の大きさや速さなどを工夫し、学習課題に沿っておすすめサラダを紹介しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕
3 振り返りをする。	○相手を意識しながら、話すときのこつや構えに気を付けてスピーチをすることができたかを振り返るよう伝える。 ○相手に伝わるように話すことのよさや楽しさ、喜びを児童が味わい、他教科の学習や実生活にも生かそうという思いをもてるように、これまでの学びを価値付ける。	★スピーチの様子	

## 7 本時の学習

### (1) 本時のねらい

レベルアップタイムを通して、相手を意識しながら話すことの大切さに気付き、よりよいスピーチになるよう練習に取り組むことができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 本時の活動を確認する。		
レベルアップタイムを使って、おすすめサラダのスピーチをよりよくしよう。		
2 やり取りモデルを視聴し、レベルアップタイムの進め方を確認する。	<p>○目的に応じたレベルアップタイムを展開できるよう、スピーチをする前に意識するポイントを聞き手に伝えたり、スピーチをした後に感想を求めたりするなど、進め方を丁寧に確認する。</p> <p>○スピーチをする際は、サラダの絵を譜面台に載せ、聞き手を意識して話すよう助言する。</p>	
3 トリオになり、お互いのスピーチを聞き合う。 (レベルアップタイム②)	<p>○スピーチメモをもとに、聞き手に向かってスピーチをすることで、相手意識をもって話せるようにする。</p> <p>○やり取りを行うのが難しいトリオに対しては、話し手の声が聞こえたかなど、まずは話すこつに関して感想を伝えるよう助言する。</p>	
4 レベルアップタイム②を振り返って、「よりよいスピーチ」について、全体で考える。	<p>○レベルアップタイム②を振り返り、自分が話して満足するのではなく、伝えたい相手を意識して話すことの重要性に気付けるようにする。</p> <p>○話すときの構えの大切さにも気付けるようにするために、スピーチモデルは教師の実演で示す。</p> <p>○スピーチモデルをもとに、「よりよいスピーチ」について考えることで、話すときのこつや構えについて意識を向けられるようにする。</p> <p>○自分たちで考えた話すときのこつや構えをもとに、話すめあてを設定するよう促す。</p>	
<p>【話し方の工夫の観点】</p> <p><b>話すときのこつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に届く声で話す（声量）</li> <li>・ゆっくりと話す（速さ）</li> <li>・言葉をはっきりと話す（発音）</li> <li>・丁寧な言葉で話す（言葉遣い）</li> </ul> <p><b>話すときの構え</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を見て話す（視線）</li> <li>・まっすぐに立って話す（姿勢）</li> <li>・笑顔で話す（表情）</li> <li>・身振り、手振りを付けて話す</li> </ul>		
5 よりよいスピーチの確認を踏まえて、スピーチの練習を行う。 (レベルアップタイム③)	<p>○話し手には、レベルアップタイム③の開始前に、「話し方の工夫の観点」のうち、自分で1～3点に絞り、めあてを意識して話すよう伝える。</p>	<p>◆「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。〔思考・判断・表</p>

<p>6 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き手には、話すときのこつや構えを意識しながら相手のスピーチを聞き、感想やアドバイスを伝えるよう助言する。</li> <li>○4で全体共有した「話し方の工夫の観点」について、できているかどうかを確認し合うよう促す。</li> <li>○レベルアップタイム③の前に設定しためあてが達成できていたら、お互いの学習カードに丸を付けて評価するよう伝える。</li> <li>○友達と聞き合って気付いたことやレベルアップタイム②と③のスピーチを比較して考えたことについて振り返るよう助言する。</li> <li>○振り返りをもとに、次時のおすすめサラダ発表会に向けて自分のめあてを設定するよう伝える。</li> </ul>	<p>現] A(1)ウ ★スピーチの様子、 交流の様子、 ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> 「相手に届く声で」「ゆっくり」「はっきりとした言葉で」といった、「こつ」の観点は十分に達成していると想定できるため、「身振り」「手振り」「視線」といった「構え」の観点を意識してスピーチをするよう助言する。また、友達のスピーチを聞き、よりよいスピーチになるように、感想やアドバイスを伝えるよう助言する。</p> <p>○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u> まずは、話の内容が相手に伝わるように、声の大きさや速さなど、「こつ」の観点を意識して話すよう助言する。</p> </div>
-------------------	---	--